

北海道訓子府町を表敬訪問

総務常任委員会と産業建設常任委員会は去る5月14日から16日まで合同の視察研修を実施しました。

○交流の経過

平成5年訓子府町より高知県知事に交流市町村の紹介を依頼し、同年東津野村が交流の意思を表明。以降平成8年から平成26年4月までに訓子府町から述べ274人、津野町から313人（公式記録）の交流が行われている。



交流会（訓子府町役場）

○北見農業試験場

道内の22の道立試験研究機関が統合され、平成22年4月、地方独立行政法人北海道立総合研究機構が設立され、この一つとして訓子府町に北見農業試験場がある。組織として、麦類、作物育成、生産環境、地域技術のゲ



小麦の試験場を視察

ループが編成（職員数45名、うち研究員31名）されている。秋まき小麦「きたほなみ」、ばれいしょ「コナユキ」玉ねぎ「さらり」、チモシー「なつちから」を育成するなど麦類、ばれいしょなどの畑作物玉ねぎ、チモシーに関する試験研究を行っている。

○訓子府町共同利用模範牧場

酪農家の平均耕地面積が22haと少ない中で酪農の規模拡大を促進し、酪農近代化を達成するため、育成部門の分離により施設・耕地の利用効率を向上し、所得の増大を図ることを目的として整備された。

総面積622haの敷地内での認容頭数は910頭である。

○訓子府町児童センター

「ゆめゆめ館」

放課後の一定の時間を異年齢集団で生活することで、遊びを通じた交流を促進し、様々な交友関係を通じて豊かな人間性や社会性、自主性、協調性が育つように支援することを運営目的としている。



自由に遊ぶ子どもたち

利用対象者は原則として小学1年生から6年生までで、通年開設され、利用料は月額一人につき2千400円である。

研修を終えて

平成25年4月に開設された児童センター「ゆめゆめ館」は、津野町産の桧が床材等に使用されており、玄関に入るといい木の香りがした。

中では宿題をしたり絵本を読む子、遊戯室では元気に体を動かす子等、それぞれ過ごしており、皆初めて会う私たちにも元気に挨拶してくれた。

保護者が就労等により日中家庭にいない子どもが対象となる「児童クラブ児童」と自由に来館して利用する「自由来館児童」が一緒に利用できることや春・夏・冬の長期休暇中、土曜日、振替休日も利用することが可能であるとのことで、保護者が安心して楽しく子育てができるように支援がなされていると感じた。

今回の表敬訪問において引き続き姉妹まちとしての友愛の絆を深め、更なる交流へと発展することを再確認した。



床は津野町産の桧を使用